

## ◆ 令和3年12月補正予算等特別委員会

## 奈良町からくりおもちゃ館の年間指定管理料について

指定管理料が十分とは言えない中での運営となることから、指定管理料の上積みは難しくとも、「入館料の徴収」をはじめ、本市が出来る対策を検討していくこと。周遊環境の充実という方針があるなら、「市は施設どうしの連携を図る仕組みの充実」、「指定管理者は自主事業等の充実を図り自主財源を確保しつつ、地域の活性化に取り組む」など、様々な角度から検討できる余地は残されていると考えられる。是非とも地域のにぎわいを創出するため、また新奈良町にぎわい構想にある「歴史・文化の継承という基盤の上に、観光と生業の充実を図り地域住民の暮らしの充実を実現していく」ため、今後も本市が出来る支援体制は何か、また、指定管理者が出来ることは何か、それぞれの役割を再度整理し、互いが十分な連携を図りながら、地域の皆様の意見も十分に踏まえた上で、奈良町を盛り上げるために取り組みを進めていただきたいと意見を述べた。



## ◆ 令和3年12月補正予算等特別委員会

一般被保険者医療給付費事業費納付金経費、  
一般被保険者後期高齢者支援金事業費納付金経費、  
介護納付金事業費納付金経費について

国民健康保険料の都道府県化に伴い、市町村が支払う保険給付費を都道府県が市町村に交付（保険給付費交付金）し、その財源として、都道府県が市町村から納付金を徴収する。都道府県が国保財政運営の責任主体となり、医療提供体制の整備・構築、地域医療の提供水準と標準的な保険料等の住民負担のあり方を総合的に検討することを目的としている。国民健康保険の被保険者は65歳以上の高齢者が多く、また個人事業者や低所得者の割合も多く、そのような中、被保険者にとっては保険料の負担軽減は大きな関心事であり、今後も県や他市と連携して国へ公費負担の拡充を積極的に要望していただけるよう意見を述べた。

## ◆ 令和3年10月観光文教委員会

埋蔵文化財発掘調査で出土した  
遺物の収蔵について

現在の埋蔵文化財調査センターの遺物収蔵状況と今後の出土数の見込みについて質問。

現状、収蔵庫はキャパシティを超えており今後も出土数が増加傾向にあるとの回答を受け、平城宮跡をはじめ奈良市は文化財の宝庫であり、誇るべき貴重な文化資源と考えられる。それらの遺跡から出土した遺物も重要な文化資源であり、その保存、管理が適切になされることで文化財の活用に繋がっていくものと思われる。

出土遺物の収蔵についてはできるだけ管理が行き届く埋文センター内での保管が望ましいと考え、敷地内に収蔵庫を増設する方向で現状を早急に改善するよう努めていただき、また収蔵庫に保管されている出土遺物のなかには、未公開の珍しい国宝級の遺物も沢山あり、研究や調査の終了した遺物については一般に公開するなど、奈良市民はもとより県内、県外しいてはアフターコロナに向けて世界の方々にも奈良の貴重な文化財を知ってもらえる場を設けていただき、2025年には大阪万博も開催される事なので、是非検討していただくよう意見した。



## ◆ 令和3年10月観光文教委員会

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた  
農業者への支援について



新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった令和2年度から国が実施している生産者支援として「高収益作物次期作支援交付金」がある。

これは、感染症の発生により売上が減少するなどの影響を受けた、茶・野菜・果樹・観賞用植物等の高収益作物について、次期作に前向きに取り組む生産者の支援を行うものであり、運用状況については一定程度の活用がされていることが確認できた。また今年度実施されている本市独自の生産者への支援策である「奈良市GAP・有機JAS認証支援事業」について、今回の緊急対策については生産者の今後の安定した経営を維持する上でも重要なことであり意義のある事業と考えるが、どのような周知を行ったのか、また現在の申請状況について確認し、本市ホームページなどを活用し一定の需要があることを確認することができた。

新型コロナウイルス感染症の影響は様々であり、本市としては生産者への個別周知もされているが、お茶の生産者のみならず単年度支援のこの制度を知らず活用できなかったという生産者がないように、引き続き周知徹底を要望した。



詳しくは議会中継（録画）をご覧ください→



奈良市議会ホームページ

<https://www.city.nara.lg.jp/site/narasigikai/>